



「鶏闘」、こちらでは“Cock Fight”（カク・ファイト）と呼ばれているフィリピンの国技的な催しである。地元のテレビには準レギュラー的な番組もあり、気にはなっていた。

そして、これを実際に見る機会がやってきた。

会場となるアリーナ（Cockpit Arena）は意外にも町の真ん中にあり、それも複数、週末を中心にレギュラー開催である。80ペソ（約150円）の入場料を払いリングサイドへ。

まずは、耳を押さえたくないような凄まじい喧騒に圧倒される。

目的は、対胴元、そして観客同士の賭けである。

試合に張る額を指で示し、叫びながら、目の色を変え、相手を探す。

一方、リングでは、鶏同士の鼻先を近づけ、互いの闘争心を極限まで扇ぎたてる。

そして、いよいよゴング。

鶏は地面に放たれ、静まりかえる観客の前で互いの間合いを詰めていく。

一瞬、けたたましい雄たけびと共に、双方絡まりながら高く飛び上がり空中でもみあい、そして落下する。

そのとき、一方の鶏は地面にうずくまり、一方は全身でこれを押さえつけ、執拗なまでに眼をついばむ。

勝負はあった。

鶏の脚には、鋭利なカミソリが固縛されており、これで相手を一撃し肉を裂くのだ。

しばしの歓喜とため息の後、次の鶏がリングに運び込まれ、また、勝負の賭け金を張り合う喧騒の世界へ。血の気が多く、そしてチマチマとした、いかにもフィリピン人好みの趣向ではある。